

基本設計の検討における住民参画状況

内容	R7.4.30	R7.6.10・11	R7.7.6	R7.7.16	R7.7.31・8.1	R7.8.29	R7.9.7
	基本計画職員説明会	公民館・老人福祉センター登録団体意見交換会	新施設ワークショップ	ブロックプラン説明会	模型の展示+意見交換	軽井沢ゼミ	進捗状況報告+座談会
							
対象者	職員	公民館登録団体・老人福祉センター利用者	住民	職員	職員	小学校5・6年生	住民
参加人数	222	48	41	197	96	17	27
目標	策定した基本計画に対する理解とこれから進める基本設計に対する積極的な参画機運の醸成を図る	現在の利用者の生の意見を聴取することで今後の活動の継続性を担保するとともに、交流センターに真に必要な機能を見定める	実際の利用シーンを思い浮かべることで参加者と新施設ができた後のいいイメージを共有するとともに、そこから得られる設計のヒントを拾い出す	一旦まとめたブロックプランに対する具体的なイメージを共有して積極的な参画体制を構築する	説明会における説明不足を補完し、職員の計画に対する理解度を上げる	本事業にこれまで関わりが少なかった子どもたちの感性による気づきを得るとともに子どもたちから「建築の楽しさと自分たちの町への関心」を引き出す	これまでの進捗状況を報告したうえで、現段階のプランに対する思いを受け止める
新たな試み	サテライト会場を設けることで移動時間の短縮を図り、参加しやすい環境をつくる	意見交換にあたり、同種のグループ（会議系、音楽系、調理系等）に分かることで意見を出しやすくする	①シーン別イメージワークショップ（参加者が思い描く施設の使い方をAIに取り込んだストーリーを作成・朗読し、そこから設計のヒントを拾い出す） ②模型を囲んだ意見交換	-	自由な時間に立ち寄れるスタイルとし、模型を使い立体的な視覚による説明を行う	・子どもたちに建築の自由さや歴史を紹介し、建築に关心を持ってもらう ・子どもたちはどんな公民館がほしいか、公民館にあつたらうれしいものをグループで考え方発表	聞きたい項目を参加者から集めて様々な角度（賛成・反対）から意見を交換する
成 果	開催後のアンケートでは、課題や不安点等もあるが、多くの期待や前向きな意見、応援のメッセージをいただけた	自らの活動を充実させるための意見だけでなく、庁舎機能を使う職員の環境を気遣う意見もいただけた	①新施設の良いイメージの共有と設計者としての気づき（交流を紡ぐには、視覚だけでなく五感を同時に刺激する空間づくりが大切） ②模型を見た率直な意見（2階北側の出入口に対する違和感、ホールの使い方に対する期待感等）	職員が何を不安に思い、何を欲しているかを理解する一助となった（ロッカー等の収納環境、執務室の面積、職員のみの休憩スペース、フリーアドレス、売店、セキュリティ等）	・参加者個々の疑問点を解消することができた（新施設への出入り、降雪対応、ロッカーの使い方等） ・中庭のよさに対する理解を得た	・子どもたちが新施設に求めているのは、友達と気軽に集まって楽しめる複合施設的な場所であり、大きな期待を寄せていることが伺えた ・模型を見た時の感動や中庭がよいといった反応があった	一定程度参加者が意見を言えたと感じられる内容となつた
設計への反映ポイント	-	・ホールの設え ・各諸室の防音対策 ・職場環境の整備	・出入口の再検討 ・和室の設置	・職員休憩所のあり方 ・出入口及び駐車場の再検討	・公用車駐車場からの動線 ・職員休憩所のあり方	・新施設前面の緑のエリアの使い方 (新施設に対する期待)	(新施設に対する期待) (緑の中の建物のよさ)
反省点	掲示板等による周知だけでなく、職場に対しても細かく周知していく必要があると感じた	-	一部の参加者にAIを使った新たな試みに対するアレルギーや言いたい意見を言えないフラストレーションを与えてしまった	実施後のアンケートから計画の良さを伝え切れていないことが読み取れ、職員に多少の不安を与えてしまった	-	模型を見る時間が少なかった	すでにある程度本事業に対する情報を持っている参加者にとっては説明が冗長になってしまった
今後の課題	引き続きこういった機会を設け、計画に対する職員の理解を得るとともに、協力体制の構築を図る必要がある	・利用者が欲しい機能と町が準備すべき機能のすみ分けを行う必要がある ・利用料の有料化に対して理解をていく必要がある ・予約に対する不満も多いため、新施設供用開始前にWeb予約等を導入する必要がある	すべての層に受け入れられるのは難しいが、新しい中にも従来の手法（今回でいえば意見を言えたと感じられる構成）をうまく混ぜ込む必要がある	・説明の仕方・内容等聞き手に伝わる方法を研究する必要がある ・新しい働き方に対するイメージが持てるような取り組みを行う必要がある。 (フリーアドレスで働くイメージなど)	・参加者には一定の理解を得られたと考えるが、今後もできるだけ多くこういった機会を設ける必要がある ・平面図だけではイメージしきれない職員も多くいるため、3Dや模型を広く活用し、意見を求めたい	新施設を一番利用するであろう子どもたちが参加したいと思える仕掛けを考える必要がある	・既に決定していること、意見を求めたいことを明確に説明する必要がある ・長年対話を続けているため住民それぞれの情報量や温度感に差があり、全体としてどういった説明をしていくかを判断する必要がある

ブロックプラン模型展示及びヒアリングまとめ

1. 実施の目的 7月16日（水）開催の職員説明会を補足すべく、模型展示を行い、職員からヒアリングを実施した。

2. 実施日 令和7年7月31日（木）、8月1日（金）

3. 参加人数 延べ96名（45名+51名）

4. 意見一覧

【職員駐車場】

- ・職員駐車場からの導線が気になっていたが、今度は比較的近くなるので嬉しい。
- ・一方で、これから工事期間から運用までの間で職員駐車場が減台していくので早めに対策を周知して欲しい。

⇒数年前は、公民館西駐車場に加えて中保育園の跡地なども利用していたのでおそらくそのような運用になってくると考えている。

【職員休憩所】

- ・職員休憩所は、住民と兼用で、パーティションなどで区切られているという説明もあったが、今のことろは完全に分けて欲しい。職員だけで話したい内容や、小さい町なので知り合いやさつきまで窓口で対応していた来庁者と顔を合わせるのは気が休まらない。
- ⇒空間も十分に確保し、休憩できる環境を整えていけるよう検討を進めていくが、そういった意見を多くの職員がもっていることは課内で共有する。

【ロッカー・更衣室等】

- ・コートなどをまとめてかけることは、効率的だとは思うが、気持ちの良いものではない。
- ・小さいロッカーのみという印象だったので、しっかりと棲み分けをしてもらえば問題ないと思う。
- ・単純にロッカーは広い方が良いとは思う。
- ・ヘルメットや長靴などは使う人とあまり使わない人でロッカーの扱いに差がでるのは良い。
- ・女性用のシャワー室もあるべき。

【職員導線】

- ・作業を終えた職員が公用車車庫から降りて正面から施設に入ることに抵抗感がある。
- ・鶴溜線沿いに公用車や職員の導線をまとめられないか。
- ・町長車、議長車は一般の公用車と同様の場所なのか。
- ・宿直と施設管理全体の関係性が見えづらいので今後検討（宿直に用事がある場合の導線が遠い）

【中庭】

- ・なぜ中庭という案になったかという経緯がわかったので、もう少しそれを浸透させればいいと思う。
- ・中庭や、前庭で座って休憩や御飯が食べられると気持ちよさそうでいい。（日影は必要）

【建物・土地形状】

- ・この敷地勾配をみると、鶴溜線や裏の用水に水が流れ込んでしまうのではないかと心配
- ・西日が気になる。
- ・雪が心配

⇒冬季は使用しないことを前提に考えている。

- ・病院からの利用者を考えるなら、病院から新施設までを屋根伝いにできないか。

【出入口】

- ・模型を見てみるとやっと2階から入るというイメージが湧いた。
- ・一階からはいるとするともう少し東側にエントランスを設けたらどうか。

【議会】

- ・ぱっと見て議会大きいと思う。
- ・北側出入り口が2階なのであれば議会は1階でも良いと思う。

【外構】

- ・軽井沢に桜の名所がないので、桜の木を増やして花見ができるようになればいい。
- ・緑が多くなるのはいいが、その分野生動物に荒らされるのが心配（フェンスの設置は？）
- ・防災公園的な機能は？自衛隊の炊き出しやお風呂の設置エリアの確保、かまどになるベンチの設置など
- ・緑地部分の一角に野外ステージのようなものが欲しい。
- ・広大な土地となるが、雪かきをした際の雪はどこに持っていくのかは検討しておいた方が良いと思う。

【交流センター】

- ・座れる階段の必要性がわからない。座る場所が少ないから？でなければ必要ないのでは

【執務室】

- ・フリーアドレスという話があるが、自席が欲しい。自分の居場所として安心できる。

【工作室】

- ・職員（庶務員）も工作室を使えるようにして欲しい。

【倉庫】

- ・現在、ボイラー室でガソリン等の危険物を保管してあるが、倉庫などを用意して欲しい。

【一般駐車場】

- ・駐車場にはゲート等の設置をし、不法利用をされないようにするべき。

【E V】

- ・エレベーターは多めの人数が乗れる大きなものとしたうえで、2台以下に抑えたほうが良い。

学校名	学年	感想
東部	6	いろんなたてものがあっておもしろかった。 私も一つ作ってみたいなと思った
東部	5	お姉ちゃんが建ちくにかかわっていることが多いので、教わったことを姉に話します。
東部	5	楽しかった バスケットコートができるとうれしい
東部	6	いろいろた建て物のことが知れてよかったです。
東部	6	いろいろけんちくにまなべてたのしかったいろいろなかたちのたてものがみれてうれしかった
東部	5	軽井沢の未来のやくばのもけいを見れてくわしく知りました。 やくばの未来を見て楽しかったです。
中部	5	軽井沢の事色々しれてよかったです。！ あと公みんかんのせっけい図みられた！
中部	5	たてものの事をいっぱいしれたし絵の書き方みたいのをおしえてくれてうれしかったです。
中部	5	町やくばがはやくかんせいしてほしい
中部	5	公民館が3年後きれいになって、どんなしせつになるか楽しみ
中部	5	まちやくばがおもしろそうで早くできてほしいとおもった
西部	5	やくばをたてかえるならUSJをいれてほしい もけいをつくれるならもっとはやくやくばをつくれんじゃねとおもった
西部	6	世界には、いろんな建築があると知ったし、個人的に建築が好きなので楽しかった。
西部	6	いい話が聞けて良かったです。
西部	5	カフェがあってうれしい

※中部2名 感想提出なし

7.9.7座談会意見聴取対応一覧

カテゴリ	参加者の意見要旨	町の考え方
1	職員の休憩スペース 職員がくつろいで自分自身をホッとできる時間がもてる、という点は住民にとっても重要と考える。	職員のための休憩スペースを設けるべきといった声は、職員以外から多くいただいているので、住民サービス向上の観点からもしっかりと検討していきます。
2	実際に働いている現場の職員の声を聴いているか。使い勝手の良い建物になるように。	職員に対しても、随時説明会や窓口ヒアリングなどによる意見聴取を行っており、計画に反映するよう努めています。
3	職員が仕事を行うことがメインのため、仕事がしづらいようでは困る。町民は公民館として使いやすいように。	
4	駐車場から施設への動線 1階で対応する部署、2階で対応する部署をどう考えているか。配置を考えた動線の再考が必要では。 エレベーターの位置と台数が心配 車いす使用者、雨天時の施設へ入る配慮をしているか。	
5	軽井沢病院との連携 軽井沢病院と連携を図りながら、新庁舎としての役割（健康相談窓口など）は考えているか。 ドクターへリの着陸場所の確保	
6	会議室 コンプライアンスの面からも職員との懇談ができるちょっとした個室程度の部屋が必要。	
7	茶道のできる和室 現在活動している茶道教室は継続できるのか。 茶道具の収納場所も考えられているのか。	
8	ホールの収容人数は。	
9	文化活動について 文化活動の拠点として、設備、機材は充足されるか。 音楽活動が盛んで同日に数団体が活動することもある。音楽スタジオも設置されているが、他の部屋も使えるよう、防音設備を充実してほしい。大賀ホールは敷居が高いイメージよりも設備が足りないで使えないということ（ミュージカルなどには使えない）。	
10	中軽井沢商店街と新施設（交流センター）が互いに協働して賑わいをつくる方策は。 今まで公民館を利用していない人（新たな利用者）をどう集めるか。	

7.9.7座談会意見聴取対応一覧

カテゴリ	参加者の意見要旨	町の考え方	
11	イベントスペース 音楽、芸術、映画など目的に町民が借りられるスペースを知りたい。	講堂（ホール）について、ご意見のような使いができるよう検討しています。その他、多くの住民の皆様に使っていただけるよう様々な活動に応じた諸室を検討しています。	
12	カフェスペース 若者、友だちがちょっとした空き時間に交流できる所がほしい。	ご意見のとおり、ラウンジ、展示スペース、浅間山が一望できるスペースなど、様々な交流が行える開かれた場所を計画しております。“ここに来れば常に誰かがいる、何かをしている”といった「まちと人」、「人と人」をつなぐ交流の拠点となるよう検討しています。	
13	職員の利用するスペースと町民及び公共のための面積について基本構想時と基本計画での比較があれば教えてほしい。同規模自治体との比較は。	令和7年3月に策定した基本計画の57ページから59ページに部屋ごとの比較表の記載がありますのでご確認ください。同規模自治体との比較については、自治体ごとの考え方等もあり、単純に比べられないこともありますが、成功例・失敗例それぞれ参考にさせていただいています。	
14	公用	公民館機能と庁舎が一体となったことと、公民館機能の部分を庁舎機能に行くときに通ることで活動が目に入り、新たな活動につながると感じた。	一体化のメリットをより一層感じていただけるよう更に検討してまいります。
15	トイレについて 多目的トイレはウォシュレットなどあってもいいが、それ以外は流すだけのものでよい。	ご意見として賜ります。	
16	議会	議会のスペースの有効活用 議員は常時使うものではないので広くスペースをとる必要はないと思う。また、広くスペースをとるのであれば共用可とするように。	議会エリアの有効活用については、議会と共に検討を進めています。
17	コスト	建築コストについて どのようにしたら、50%（例えば）くらいまで削減できるか。	建築コストについては、なるべく下げられるよう設計者と共に検討しておりますが、限度もあることをご理解ください。
18	コスト	建築後の維持管理 合体させた大きな建物になるので、無駄な電気代生じるのでは。 中外の採光で省エネできるのでは。 100年先のことを考えて良いものをつくるべき。	無駄な電気代が生じないように2施設を一体化するという一面もあります。ご意見のとおり、採光による省エネも検討していますし、「100年後の風景をつくる緑の中の建物」をコンセプトに計画を進めています。
19		金額がかかったとしても50年、100年持つものを作るべきである。	
20		50億程度のプランの作成は行ったのか。	50億円のプランの作成は行っておりませんが、金額と内容を加味しながら検討を進めてきております。
21	環境	町では環境政策に取組んでいるが、先日も企業も絡めて広域的に「CO ₂ 排出実質ゼロ」に取組む宣言をしたが、当然ながら、この新施設建設もZEBを目指すべき。 CO ₂ がどのくらい減るのかなど、数字で示した表ののようなものはないのか。	ご意見のとおり、『ZEB』を目指すということについての認識は同じですが、本事業においては、施設単体というよりもっと広域的な視点で捉えるべきとの考え方から、基本計画においても「現時点では『ZEB』ではなく、ZEB ReadyからNearly ZEBを想定」することで方針を決定しています。先日「浅間ゼロカーボンコンソーシアム」の発表もありましたが、一つの町だけでなく、様々な自治体、企業と一緒に進めていくこととしており、本事業においても環境課と連携しながら進めていきたいと考えています。 また、数字に関しては、設計が終わったところで、お示しできるものはお示しします。
22		災害が発生したら、生活等の不便が感じないでいられるか。 能登半島での震災の際、インフラが途絶えて緊急時に備えられなかった事例があるが、どのように考えているか。非常用発電機の燃料は油でなくガス等を考えているか。 環境負荷に対応すべき	万が一の災害に備え、さまざまなライフラインの途絶への対応を検討しております。7日間庁舎機能の維持・継続ができるよう、電力、通信、水道、下水、食料等、バックアップ体制を整え、災害時のライフラインを確保できるよう進めています。 また、非常用発電機の燃料については、法律上の制約や、燃料の安定供給の観点から化石燃料を使用する計画としています。

7.9.7座談会意見聴取対応一覧

カテゴリ	参加者の意見要旨	町の考え方
23 防災	南海トラフ地震により、富士山や浅間山の同時噴火が起こりうる報道がされた。 万が一、浅間山が大噴火が起きたらときどのように考えているのか。	大規模噴火が発生した場合は、全町避難が想定され、災害対策本部も災害規模に応じて別の場所に移すことになります。
24	災害防災拠点として、何人避難を想定しているのか。	国の指針により、1人あたり3.5m ² の居住スペースを確保することになっています。避難所とする部屋の面積がまだ確定しないため、正確なことは言えませんが、およそ避難者350人、職員250人で計600人程度を見込んでおります。
25	レイアウトについて 広々としたおしゃれな設計だが、機能的なものにした方がよい。車が不可欠なので、駐車場を広くとるべき。おしゃれな広場は必要ない。	駐車場については、緑の中の庁舎というコンセプトのもと、自然環境との調和を図りつつ十分な台数を取れるよう検討しています。
26	夢のある場所だと感じる。	更にご期待に沿えるよう検討してまいります。
27	建物の形について このような形にした理由、メリットは。特異な形に思える。 将来の増改築への対応は。	建替えにあたっては、軽井沢の歴史を踏まえた「質実剛健で品格のある“軽井沢らしい建物”」を目指しております。「四角のビルのような建物で十分」といった意見もありますが、多くの人を惹きつける軽井沢の魅力の原点は、美しい自然とそれに調和した低層建築物が織りなす独自の景観にあります。この景観は、長い月日をかけてここに暮らす人々の手により育まれてきたものであり、軽井沢を訪れる人々に癒しと安らぎを与え、住民にとって誇りとなる財産ですので、「軽井沢町の自然保護対策要綱」の理念をできる限り体現し、他のお手本となるべく、景観や建築デザインの部分も軽井沢の歴史や文化を重視しながら事業を進めて行く中で多角形の案が生まれました。通常考えうる四角形案と多角形案を建物形状イメージ、定量評価、定性評価といった様々な角度から比較しましたが、前述の軽井沢らしさは多角形案にしか出せないと結論に至りました。 また、コスト面をみると、四角形案と比較して多角形案は、建設費（イニシャルコスト）は高くなるものの、維持管理費（ランニングコスト）では有利となり、総額（ライフサイクルコスト）でも同等のメリットが見込めることも挙げられます。 最後に、将来の増改築については考えておりませんが、将来対応がし易い可変性の高い施設計画としていきます。
28 計画 全般	なにがどこまで決まっているのか。	令和7年3月策定の基本計画において、建替えは行うこと、計画地は現庁舎を含む町有地とすること、新施設は2施設を一体化し中庭を配した案とすること、現時点ではZEB Readyを想定すること、施設の規模は概ね9,000m ² とすること等は決定しております。 現在検討しているのは、施設の中身、内容となります。
29	反対意見はどうなったのか。	どのタイミングでも反対意見はあり、また、すべての意見を取り入れることはできませんが、しっかりと意見を聞いたうえで取り入れるべきと判断した意見を選択し、その都度住民の皆様との合意形成を図りながら進めておりますことをご理解ください。
30	町長の公約が守れないのならリコールも考えるべきではないか。	リコールは町が考えるべきことではありません。
31	この計画について、住民投票をかけることはできないのか。	これまで丁寧な説明を心がけ、住民との合意形成のプロセスを重要視して事業を推進してきておりますので、住民投票は考えておりません。
32	既存の公民館や老人福祉センターを改修すれば40年使えるという意見があったが、それは全く考慮されないのか。	中央公民館をリノベーションする案も含めた整備方法については、様々な形で住民との意見交換の場を設けて議論し、合意形成を図りながら一体化案とする旨決定しておりますので、全く考慮されていないものではありません。

7.9.7座談会意見聴取対応一覧

カテゴリ	参加者の意見要旨	町の考え方
33	別荘民は選挙等にかかわることができないが、この建て替えには固定資産税が多く使われてるかと思う。私は年に一回しか使わないのに100億以上使うのはどうなのか。また、見直しをするといっていた町長が当選したにも関わらず、金額が変わらないのはおかしい。	これまでの検討の中で、あくまで現在の状況ですが、見直し前の計画のまま事業を進めていれば総事業費162億円となるところ、見直しにより総事業費約120億円から125億円（42億円から35億円の減）となっており、決して見直し前と同じではありません。
34	新庁舎の反対派の委員は改修するとの意見を言ったが意見は参考程度にとのことで意見を聞いていない。住民説明会で委員は発言するなどといった、言論統制のようなものもあると聞いた。そもそも作るのかを考え直したほうが良い。	庁舎改築周辺整備事業推進委員会の議事録はすべて公開しておりますので、ご一読いただければそうでないことはご理解いただけると思いますが、委員の意見を参考程度で聞かないことはありません。また、言論統制も行っておりません。
35	外庭スペース 大人も子どもも裸足で歩けるスペースはあるか。	新施設の外は勿論のこと、施設にも中庭を設ける予定ですので、緑のエリアを散策するなど、リフレッシュできる空間をつくりながら、裸足で歩ける場所も検討していきます。
36	老人福祉センターについて 現老人福祉センターは解体されるが、新たに老人福祉センターを作って欲しい。 (御代田町は3か所ある。そのうち2か所入浴施設がある。)	これまでご説明してきているとおり、老人福祉センターの代替施設として木もれ陽の里を整備した経過があり、また、公共施設の維持管理コストの観点からも新たな施設の建設は考えていません。
37	相手に敬意を持った会話をしてほしい。いわゆるカスハラのようなものは控えるように最初に司会から言ったほうが良い。	今後こういった意見交換の場を設ける際には、ご意見を踏まえた対応をします。